

# 戦争のない世界を作るために今できること

多摩市立諏訪小学校 6年 富山 紗衣

私は、この夏、多摩市子ども被爆地派遣事業に参加し、戦争や原子爆弾について学びました。

原爆から出る「熱線」、「爆風」、「放射線」が大きな被害をもたらすということがわかりました。広島を襲った原爆は市内中心部の空で爆発し、熱線が爆心地から半径3.5キロメートルの地域まで広がり、人々は火傷を負ったり、亡くなりました。広島平和記念資料館では、たくさんの遺品や原爆の悲惨さがわかる写真を見ました。その中でも、当時、中学一年生の折免滋さんの中身も真っ黒に焼けてしまったお弁当が胸に残っています。私は広島から帰ってきてから、このお弁当について書かれている「真っ黒なおべんとう」という本を読みました。当時はお金があっても買える食べ物がなかったり、男性は50歳まで赤紙が来たら何度も兵隊に行かないといけなかったのでビクビクして過ごしたり、学生は学校に行っても勉強することができずに建物疎開の手伝いや竹やりの訓練をするなど、今ではありえないような生活を想像することができました。滋さんは、原爆投下のあった1時間前にお母さんから、お弁当の中身は大豆と麦と米の混ぜご飯と聞いて喜んで出発しましたが2日後に見つかった時には、骨になり、お弁当も食べられていなかったそうです。この本を読んで、たった一つの原爆で何もかも奪われてしまった人たちを思い浮かべ、とても悲しい気持ちになりました。

熱線の次に発生する爆風は、秒速440メートルにもなり、人や物を吹き飛ばし、建物を壊していきました。また、放射線による原爆の障害は戦後何十年も人々を苦しめています。火傷の治った跡が赤く盛り上がるケロイドが生じたり、白血病やその他のがんの発生率が高くなるなど、症状は様々でした。

実際に広島に行き、原爆の恐ろしさを学び、二度とこのような悲惨な出来事は起きてほしくないと思いました。

事前活動で多摩市平和展に参加し、講演会でイラン・イラク戦争を体験したサヘル・ローズさんに質問をしました。「私も戦争のない世界を願っていますが、小学生の私でも何かできることはありますか。」と聞くと、ローズさんは「今、自分で答えを出せたと思うよ。」つまり、戦争のない世界を目指しているという意識を持つことが重要という話をしてくれました。また、町は修復できても、その町に生きていた人たちの心の傷は誰も修復できないというお話が心に残っています。

このように、戦争は多くの人の命を奪い、それまでの当たり前だった日常生活を壊してしまいます。これからも戦争を体験した人の話を聞く機会に積極的に参加したり、原爆などに関する本をたくさん読み、戦争と平和のことを学び考えていきたいと思っています。